

令和6年度 ふじみ野市立大井中学校 全国学力・学習状況調査の結果と考察

令和6年4月18日実施

この学力調査は、令和6年度の中学校3年生を対象に実施したものです。したがって、学校全体の傾向を表すものではありません。

また、本分析・考察は全国（公立）及び県（公立）平均との比較をベースにしたものであり、一定の基準をもとにした優劣や、昨年度と比べた経年変化を表すものではありません。

グラフは、成果や課題を表す領域や相関関係があるものについて掲載しました。

下の表は国語と数学それぞれの平均です。正答数、正答率ともに全国、県を上回っています。

国語	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
ふじみ野市立大井中学校	185	9.5 / 15	63	10.0	3.4
埼玉県（公立）	52,941	8.9 / 15	59	9.0	3.3
全国（公立）	875,574	8.7 / 15	58.1	9.0	3.4

数学	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
ふじみ野市立大井中学校	185	9.2 / 16	58	9.0	4.0
埼玉県（公立）	52,942	8.6 / 16	53	8.0	4.1
全国（公立）	875,952	8.4 / 16	52.5	8.0	4.1

国語は「話すこと・聞くこと、読むこと」に課題

国語は、全6項目全国・県平均を上回りました。特に「B 書くこと」の正答率は、本校が74.1%で全国の65.3%を約9ポイント上回っています。小問題の正答率では、左の表に示した一問のみ全国・県平均を下回りました。文章と図の関係を踏まえて内容を解釈する力の育成に取り組んでまいります。

国語で正答率が80%を上回った問題

正答率（％）

問題の概要	出題の趣旨	本校	埼玉	全国
物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	87.0	82.2	81.4
行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる	81.1	75.2	75.6

国語で正答率が最も低かった問題

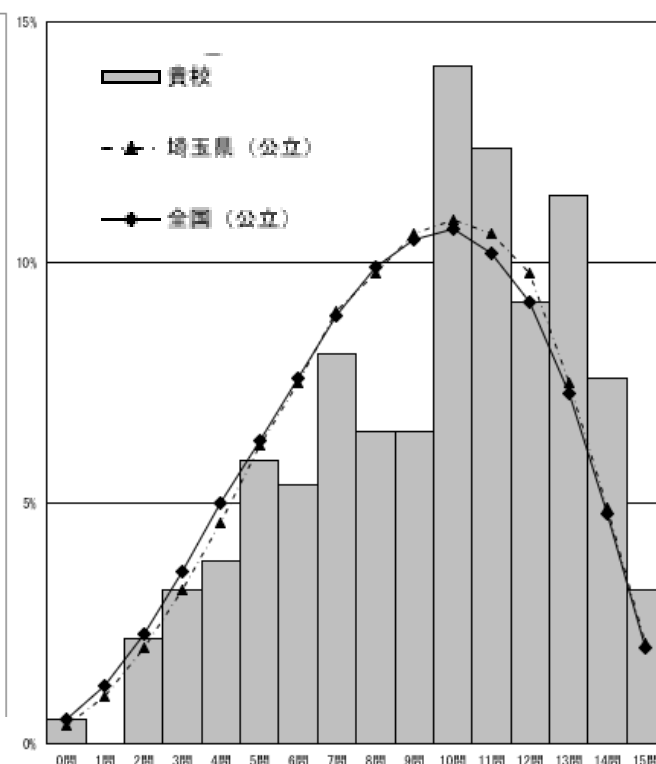
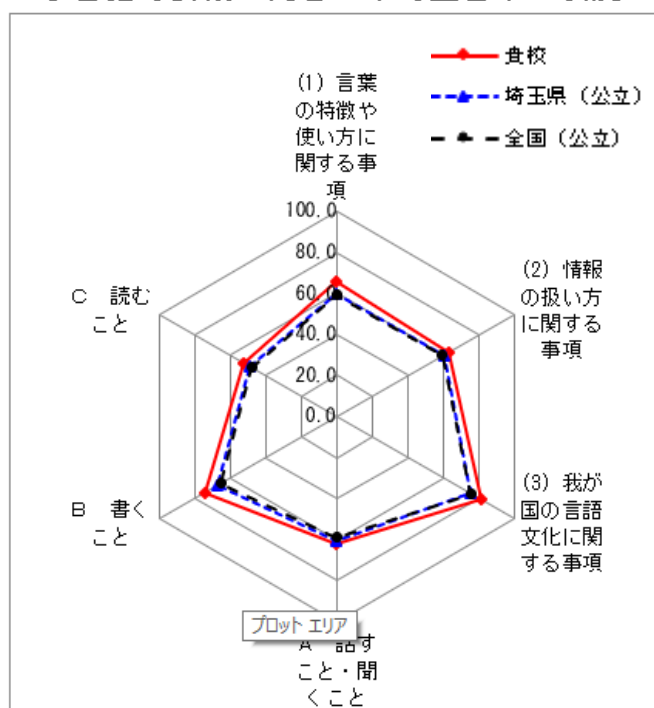
問題の概要	出題の趣旨	本校	埼玉	全国
話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる	43.2	37.8	36.3

国語で正答率が全国・埼玉県より低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	本校	埼玉	全国
本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる	62.2	64.2	63.2

<学習指導要領の内容の平均正答率の状況>

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



数学は「図形の領域」に課題

数学は全4項目及びすべての小問題で全国・県平均を上回りました。正答率が最も低い問題でも全国・県平均を上回る正答率であることから、思考力・判断力・表現力が身につけていると考えます。

今後は、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明するなど、数学的に表現することができる能力の育成に力を入れて指導してまいります。

数学で正答率が90%を上回った問題

正答率(%)

問題の概要	出題の趣旨	本校	埼玉	全国
正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	91.4	91.1	90.2

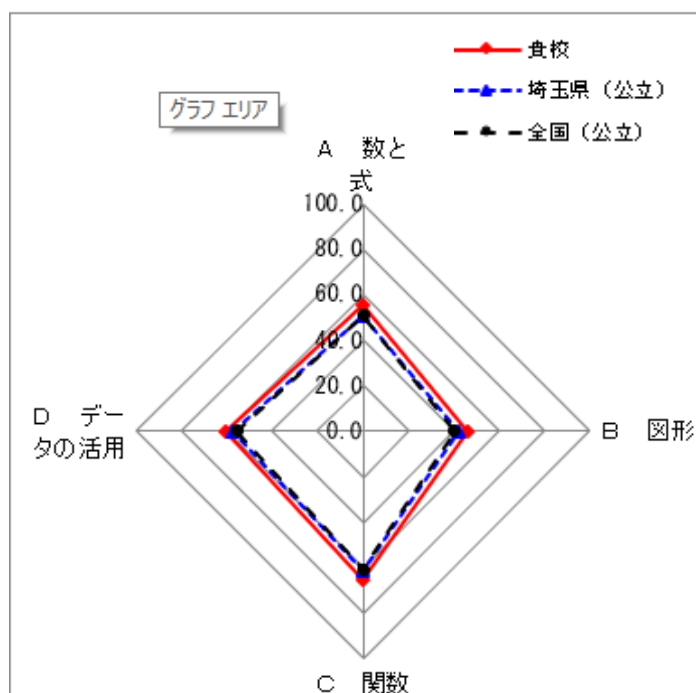
数学で正答率が最も低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	本校	埼玉	全国
18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	21.1	17.2	17.1

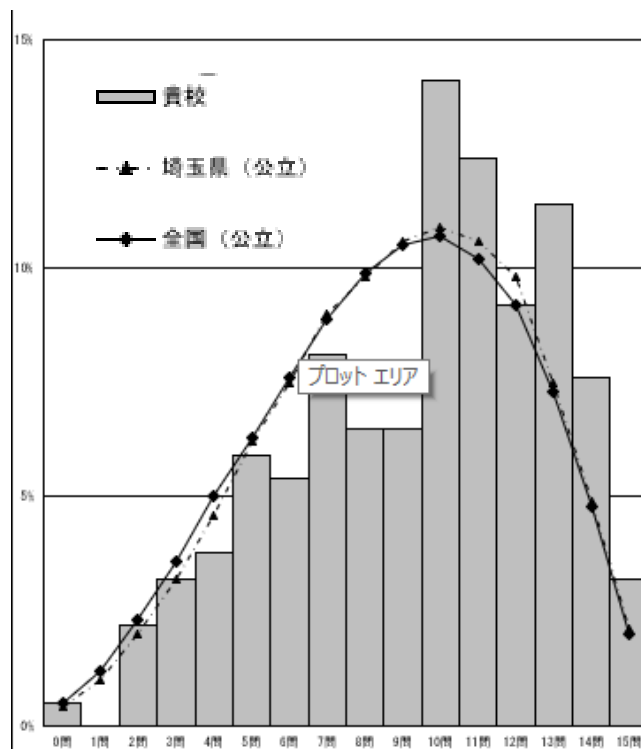
数学で番目に正答率が低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	本校	埼玉	全国
点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる	31.4	27.4	26.7

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>



正答数分布グラフ (横軸：正答数 縦軸：割合)

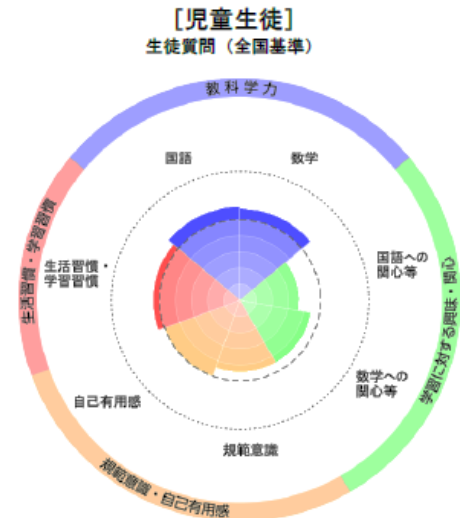


生徒質問紙による調査結果（全国基準）

生徒質問紙の調査結果が右のチャートにまとまっています。

【教科】

このチャートより、国語、数学は一定の学力はあるものの、これらの教科に対して興味・関心をあまり持つことができていない生徒が多いことがわかります。わかりやすい授業はもちろんのこと、教科の授業が実生活とのつながりを感じられるような授業づくりを今後とも続けることで、生徒の関心を高めて参ります。



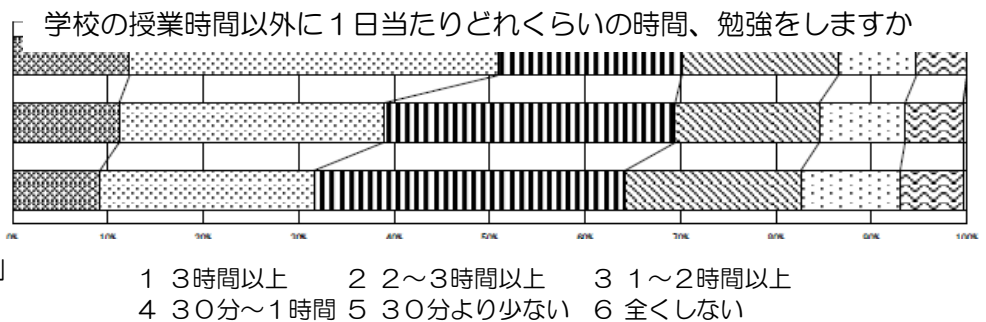
【生活習慣・学習習慣】

ほとんどの生徒が、規則的に生活していることがわかります。また、「学校の授業以外に1日どれくらい勉強しますか」

に対して、「1時間以上勉強する」

と答えた生徒が約70%おり、

毎日コツコツと勉強している様子が伺えます。

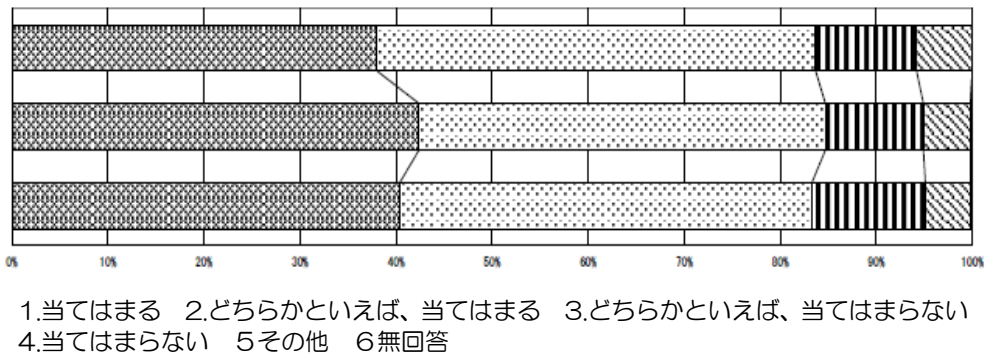


【自己有用感】

「自己有用感」とは誰かに必要とされた、人に喜んでもらえたなど、自分が有用だと思える感情のことです。

「自分には良いところ」があり、「先生もそれを認めてくれている」と感じている生徒は、埼玉県より低い数値になっています。

自分には、よいところがあると思いますか



【規範意識について】

「規範意識」とは社会のルールを守ろうとする意識のことです。

「進んで助けていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」と感じている生徒は、埼玉県より低い数値になっています。

人が困っているときは、進んで助けていますか

